

科学研究費助成事業（国際情報発信強化） 中間評価

課題番号	16HP3005	事業期間	平成 28 年度～平成 32 年度
取組の名称		団体名称	代表者名 (職名・氏名)
英文化率向上と国際的認知度向上の取組		経済学史学会	代表幹事 小峯 敦
学術刊行物の名称			(略称)
経済学史研究			

【平成 30 年度 中間評価結果】

評価	評価基準
A+	当初計画を上回っており、かつ改善した評価指標による目標達成が見込まれる。
○ A	当初計画が達成されつつあり、今後の目標達成が見込まれる。
A-	当初計画より一部遅れは見られるが、概ね今後の目標達成が見込まれる。
B	今後の目標達成の見込みはあるが、経費の使用に問題があるため、経費の減額が適当である。
C	今後の目標達成が見込まれないため、取組の中止が適当である。
(評価意見)	
<p>経済学史研究の英文率は、直近では目標である 50%を超えており、学会誌や学会自体の国際認知度の向上という目標に関しても、学会員が海外の学会において council member に就任するなど、その目標に向かい良好に推移しており評価できる。</p> <p>ただし、英文率の向上は日本人学会員による論文の英語化によるところが大きく、海外からの投稿の増加による経済学史研究の国際化には至っていない。海外の研究者も巻き込んだレフェリー体制を構築するなど、編集体制の更なる国際化を進め、学会誌、そして学会自体の更なる国際化を期待したい。</p> <p>また、掲載論文の英文率は後期 3 年間も 50%前後を維持したいとあるが、もう少し野心的でもよいのではないか。海外の著名な研究者の英文レビューを招待するなどの活動により国際的認知度を高め、海外からの投稿を増やす更なる努力をしてはどうか。最終的にどの程度の英語化を目指すのか、学会の国際化に関する長期的なビジョンと、それに合わせた学会誌の将来像を明確にすべきと考える。</p>	